

## 子どもと読書

その映画は、題名どおり心に「じんじん」きます。絵本の里として町おこしをしている北海道を舞台に、父から子への絵本の読み聞かせをモチーフにして作られた映画「じんじん」です。この映画の自主上映会が、去る4月6日に高松テルサホールでありました。そして、主催者から依頼を受けて、上映終了後、私がこの映画から生まれた絵本「クロコダイルとイルカ」を朗読しました。子どもが小さい頃、寝る前に絵本の読み聞かせをしていたのを思い出しながら、あらためて、子どもの読書習慣の重要性を再認識する機会となりました。

ブックスタートという事業があります。赤ちゃんとその保護者に、絵本や子育てに関する情報などが入ったバックを手渡し、絵本を介して心触れ合うひとときを持つきっかけをつくってもらう事業です。1992年にイギリスのバーミンガムで取り組みが始まり、高松市では2002年から事業を行っています。ちょうど人の声などに注意し始める時期の4か月児とその保護者を対象に、4か月児相談の際に、図書館員とボランティアが協力して、説明をしながら絵本一冊を含む「ブックスタート・バック」を手渡しています。

読み聞かせは、子どもの読書習慣への誘い役となります。食事の正しい習慣を身につけさせるため、食育を施すように、正しい読書習慣を身につけさせるために、本を読み聞かせて本に親しむよう仕向けることは、子どもの健全育成にとって非常に重要なことだと思います。

2001年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」においても、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」で、「そのための環境の整備が推進されなければならない」とされています。

本を読むことは心の栄養をとることです。読み聞かせをする、本を読む、図書館を活用する、ということを実際に考える必要はなく、衣や食と同じ感覚で捉えることが大事です。食べ物を食べていないとおなかがすくように、本を読んでいないと飢えを感じるような生活習慣を、小さい頃から身につけておきたいですね。